

# 平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立美保関小学校)

平成31年2月15日

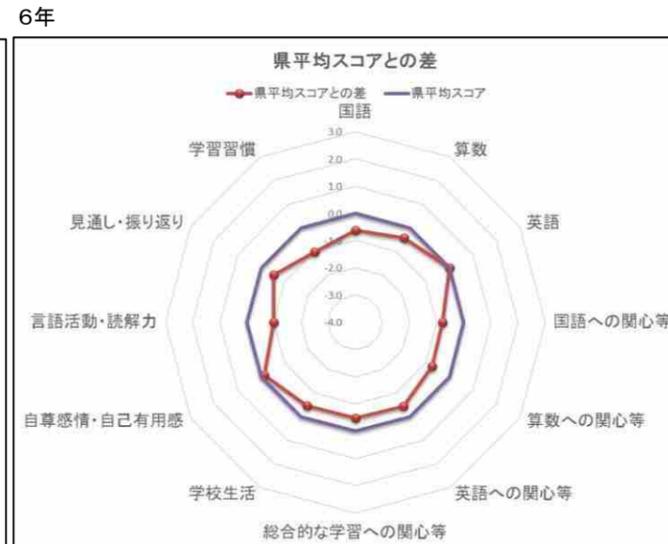
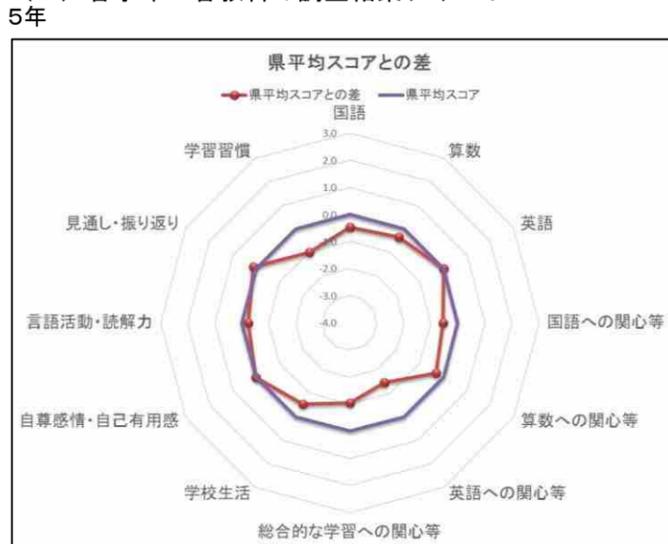
## (1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字の読みや、話し手の意図をとらえながら聞く力は、県の平均より上回っている。 ●漢字やローマ字を正しく書いたり読んだりすることや、目的に応じて書くことが苦手である。	・ドリル等を活用した読み書きの反復練習や、小テストを取り入れながら、定着を図る。 ・授業の中で、文章の読解だけでなく自分の考えを書いたり、友達の考えをまとめたりする活動を多く取り入れる。
	算数	○小数の構成や直方体の体積公式の基本的な内容については概ね理解できている。 ●直方体の展開図や面と面の関係など、立方体の構成については理解が不十分であり、空間での操作や複雑な思考を伴うもの、図形の特徴を活用することに課題がある。	・少人数学級の良さを生かし、個のつまずきを明らかにし、個に応じた対応、指導を丁寧に行う。 ・どのような考え方をういて問題を解いたのか、その過程や考え方の基本(授業のポイント)を明確にした指導を行う。
6年	国語	○接続語の働きを理解し、文章の内容から適切な接続語を選択する力は、県の平均より上回っている。 ●漢字やローマ字を正しく書いたり読んだりすることが苦手である。	・漢字ドリル等を活用して漢字やローマ字の反復練習を継続していく。 ・読書をすすめたり、学習や行事のふり返りをかいたりして、文字や文章にふれる機会を多く持たせる。
	算数	○小数の乗法についての理解は、県平均以上にできている。 ●小数+整数の計算が定着していない。 ●示された場面から基準量と比較量を捉えて割合を求めることが理解できていない。	・その日学習した内容の復習プリントやドリルなどをさせる。 ・文章題を読んで図や絵に表して考え、問題を解くことを習慣づける。

## (3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○ペア学習やホワイトボードを活用してのグループ学習での話し合い等の伝えあいを大切に取り組んだことにより、グループで考えを深めたり、広めたりができつつある。 ●発展的な学習を含め、個人差への対応を充実させていく必要がある。	・管理職、学力向上非常勤講師、にこサポ、特別支援コーディネーターによるTT指導、少人数指導をできるだけ行い、個別指導を充実させる。 ・学び合える集団作りを進めていく。
	家庭学習に関わる事項	○家で宿題をすることについてはほぼ定着してきている。 ●宿題以外の予習や復習といった自主的な学習を行うまでには至っておらず、家庭学習を1時間以上する児童の割合は県と比較し、低い。	・自主学習でやるとよいことをより具体的に示し、取り組ませる。 ・家庭の協力を得てメディアルールを再確認し、メディアコントロールに取り組む。
6年	授業改善に関わる事項	○「授業でめあて・まとめを行っている」ではおよそ90%が肯定的に答えていることから、学習過程に位置づいてきている。 ●「算数や国語が好きか」では、半分くらいしか肯定的に答えていない。国語や算数に対して興味・関心が低い。	・導入でやってみよう、考えてみようなど児童が思うように課題や前時とのつながりなどを工夫して、意欲を高める。 ・「できた」と感じるように基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、ペアやグループでの活動を取り入れることで「わかった」という実感を持たせる。
	家庭学習に関わる事項	○「家で宿題をしている」が90%で、家庭での学習は定着している。 ●およそ半分の児童が平日と休日の勉強時間がともに1時間未満であることから、学習時間が少ない。 ●読書が好きが50%、読書を全くしないが約50%と、読書習慣が身につけていない。	・宿題の量を検討し、自主学習をさらに充実させることで、家庭での学習量のある程度確保していく。 ・図書館担当者と連携して、一人一人が本に接する機会を多く持つように啓発活動に取り組んだり、読書に親しむ活動を計画する。

## (2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	55	47
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数  
5年生 28人

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	56	49
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数  
6年生 38人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

## (4) 生活・学習に関する意識調査の結果

